ISSN 1344-624X

図書館報　みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

目　　次

図書館報みかづら第 26 号の発刊にあたって ---------- 1
本からの贈り物 ---------- 2
人生の半分以上 ---------- 3
令和 3 年度三葛館活動記録 ---------- 3
図書館のドリップコーヒー ---------- 4
大学図書館の存在意義について ---------- 5
本から助けられる ---------- 6
千の風になって ---------- 7
大学生活 4 年間を通して ---------- 8

図書館報みかづら第 26 号の発刊にあたって

保健看護学部　教授・図書館副館長　宮　井　信　行

平素より、図書館の運営にご協力いただきありがとうございます。三葛館では、「図書館報みかづら」を毎年発行しております。保健看護学部の前身である看護短期大学部の開学 3 年目にあたる平成 10 年に創刊され、今回が第 26 号となります。今号では、ここ数年の間に保健看護学部に着任された先生を中心に 6 名の方にご寄稿いただきました。先生方の本にまつわる思い出やエピソード、学生へのメッセージなどが綴られています。ぜひ、お読みいただければと思います。

また、今年度の「ベストリーダー賞」（第 1 位）を受賞された方にも執筆していただきました。この賞は、卒業予定者のうち、在籍中の貸し出し冊子数が最も多かった学生に贈られるもので、受賞者には賞状と記念品が贈呈されます。三葛館には、医学や看護学の専門書、ジャーナル、資料はもちろん、それ以外にも様々なジャンルの本が所蔵されています。この中に、きっと読みたい本があります。「本とは、あなたが手に抱える夢である」（ニール・ゲイマン）という名言があるように、これからも本との出会いを楽しみ、自分の世界を広げてほしいと思います。

さて、2020 年 1 月に国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてからもう 3 年が経とうとしています。この間、三葛館においても感染拡大防止のために、臨時休館や短縮開館を余儀なくされました。利用時間が大幅に減少したことで、年間の入館者数と貸し出し冊子数はそれ以前の約半分にま

で落ち込みました。幸い、昨年度からは登学制限が解除されて対面での授業が再開したことから、少しずつではありますが、コロナ前の状態に戻りつつあります。長引くコロナ禍において、これからも図書館の利用を制限せざるをえない状況が続くと予想されます。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

三葛館では、図書の閲覧と貸し出し、視聴覚教材の利用のほか、文献の検索と閲覧、大学相互の図書の貸借・文献複写などの様々なサービスを行っています。また、学外から電子データベースで文献を検索・閲覧したり、電子ブックをダウンロードして利用したりできるリモートアクセスサービスも運用していますので、勉学や研究などに有効にご活用いただければと思います。今後も、学生ならびに教職員のニーズに対応したサービスを提供するとともに、図書館をより一層快適にご利用いただくための施設面での充実にも取り組んでまいりたいと考えております。多くの方々のご来館をお待ちしております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

本からの贈り物

保健看護学部　講師　狗　巻　見　和

私が本から得たものは、『両親への感謝』と、『子どもと過ごす大切な時間』の 2 つです。

幼かった私の楽しみは、寝る前に両親から本を読んでもらうことでした。お気に入りの物語は『ブレーメンの音楽隊』でした。動物が知恵を出し合って泥棒を追い出し、楽しく暮らすことに対して、「どんな会話するんだろう？」、「ご飯はどんなに作るのかな？」など想像したのを今でも覚えています。

私にとって両親から本を読んでもらうことは日常生活の一部でした。しかし、自分が子どもに本を読む立場になったことで、読んでいる途中に眠りそうになると「止まったよ。」、読み間違えると「そこは違うよ。」と指摘を受けるなど、子どもに本を読むのは大変な作業だなと実感し、両親に感謝するようになりました。

子どもが絵だけの本を手に取り、物語にして読み上げた時は子どもの想像力ってすごいな！と感動しました。一番多く読んだ本は、きっと鬼が出てくるシリーズだったかもと懐かしく思うこともあります。振り返ってみると、寝る前の子どもとのやりとりは大切な時間でした。

最後に、今の私にとって図書館は目当ての本を借りる場所であると同時に、目的以外の本棚を見ることで新しく発見できる楽しい場所でもあります。

人生の半分以上

保健看護学部　講師　樫　葉　雅　人

今から 23 年前になる 2000 年から人生の半分以上の年数、三葛館に通っています。はじまりは保健看護学部の前身である看護短期大学部に私が入学したことです。当時を思い起こすと、館内にはふかふかの絨毯、多くの木材が使用された建物の造り、静まり返った空間、今まで入ったことのないような雰囲気が漂っていたのが第一印象でした。当時は情報通信技術が普及し始めたころでしたので、図書をパソコンで検索する画期的な装置にも驚きました。学生時代は入口のすぐ左側にあるガラス張りのスペースで考え悩みながら課題や実習記録に打ち込みました。定期試験前にあわてて図書を借りたことなども記憶に残っています。そして看護短大を卒業後、看護師として仕事をはじめてからも三葛館にときどき通いました。お目当ては医療現場で生じる疑問や悩み、看護研究など日々の看護実践をより良くさせる図書を探すことでした。

2020 年に教員となり 3 年が経った今、情報通信技術や携帯情報端末を活用し、紙を使わずに情報や資料をコンピューターなどによって処理や保存をする時代となりました。そのような時代においても三葛館は貴重です。図書はもちろん、図書館司書さんに検索方法を教えてもらい、ある時は本の場所が分からなくて尋ね、また自分が書かせてもらった雑誌を三葛館のソーシャルネットワーキングサービスで紹介してもらったこともあります。図書の貸し借りの時には顔と顔がつながり、それがご縁でまた懲りずに自分が書かせてもらった本の紹介をお願いしてしまいました。図書と人の出会いが三葛館の思い出です。さいごに、もし私が 80 歳になったら、約 60 年間通ったことになるので人生の大半になります。その姿を図書館司書さんに見てもらおうと思っています。

令和３年度（2021 年度）三葛館活動記録

4 月 6 日	保健看護学研究科　新入生オリエンテーション
4 月 7 日	保健看護学部　新入生オリエンテーション
4 月 8 日	医学部新入生オリエンテーション
	助産学専攻科新入生オリエンテーション
4 月 28 日	第 1 回保健看護学部図書委員会
8 月 10～13 日	蔵書点検
1 月 14 日	第 2 回保健看護学部図書委員会

図書館のドリップコーヒー

保健看護学部　講師　齋　藤　真　希

図書館で過ごした時間が一番長かったのは、大学院生の時にサンフランシスコの大学に留学した時でした。自分の研究室がなかったので、講義のない時の居場所は図書館でした。図書館での私の 1 日は、コーヒーを買うことから始まります。図書館の一角にあるコーヒーショップでは、注文すると注ぎ口の細いポットで一杯ずつドリップしてくれます。少し時間がかかりますが、だんだんコーヒーのいい香りがしてくる中で待つ時間が好きでした。毎日のように図書館に通っていたので、1 週間ぶりに図書館に行った時には、コーヒーショップの店員さんに「最近来てなかったね」と言われるほど通いつめていました。

図書館では、講義の課題論文を読んで次回の講義に向けて資料を準備したり、個室を予約して研究のインタビューをしたりしていました。研究の分析では、分析ソフトがインストールされているパソコンの数が限られているので、使用できるようになれば、何時間も分析を続けることもありました。英語の資料を準備するのに他の人より時間がかかります。でも、まわりの学生も同じように頑張っている姿を見ると刺激になり、頑張ろうと思えました。夕焼けに輝くサンフランシスコの街並みを見て 1 日を終えるのがご褒美でした。

今でも、注ぎ口の細いポットでドリップしているコーヒーが並ぶ様子を見ると、図書館で過ごした濃密な日々を思い出します。

MIKAZURA　NOW !

2021 年度　利用統計

年間開館日	235 日
入館者数	3,199 人
（1 日平均	14 人）
貸出人数	1,659 人
図書貸出冊数	4,847 冊
視聴覚資料貸出件数	82 点
相互利用依頼件数	245 件
相互利用受付件数	661 件
学外利用者数	0 人

三葛館の蔵書 2021

蔵書冊数	65,641 冊
うち洋書	9,242 冊
所蔵雑誌種数	1,119 種
うち外国語	148 種
年間受入図書冊数	824 冊
うち洋書	0 冊
年間受入雑誌種数	184 種
うち外国語	2 種

（2022/3/31 現在）

大学図書館の存在意義について

保健看護学部　教授　橋　爪　洋

海外の（とは言っても、米国しか知らないのですが）大学を訪問すると、しばしば図書館の立派さに驚かされます。私が留学していた Dartmouth 大学の Baker Library は 1928 年に建立された煉瓦作りの重厚な建物で、内部は美術館のような造りになっていました。反対に後輩が留学していた California 大学 San Diego 校の Geisel Library は近未来というか宇宙の要塞のような建物で、内部も広大でそのスケール感に驚かされました。観光がてら少しだけ立ち寄った Harvard 大学や Massachusetts 工科大学の図書館も然りでした。どの図書館にも共通することは、圧倒的な蔵書の数、静かな環境の中で学生や教員、さらには外部から訪れたと思われる人たちが黙々と勉強していること、そして歴代の図書館長の肖像画あるいは胸像が目立つ場所に展示されていることです。図書館は知の殿堂であり、大学の中でとても重要な位置を占めていることが、容易に理解できます。

日本においてはどうでしょうか？残念ながら、米国で見られるようなスケールの図書館を有する大学は少ないように思われます。しかし、本学のホームページを見てもわかるとおり、大学組織の中で、図書館長は極めて重要な役職と見なされています。少し古い言い回しになりますが、大学は最高学府であり、図書館はその中核だからです。インターネットの普及により、私たちは図書館に足を運ばなくても、欲しい情報が容易に得られるようになりました。コロナ禍がその傾向に拍車をかけています。しかし、規模は小さくても、専門誌のバックナンバーや成書が豊富に揃い、学ぶための静かな環境を提供してくれる大学図書館の存在意義はこれからも失われないと思います。皆さん、是非三葛館に足を運んで、その空間に身を置いてみてください。きっと新たな発見があると思います。

リモートアクセスサービスのご案内

RemoteXs(リモートエックス)とは、本学在籍の学生や教職員が、いつでもどこでも学内の電子コンテンツを有効に利用できる、リモートアクセスサービスです。
今までは学内でしか利用できなかった医中誌や電子ブックなどが学外でご利用いただけます。
とても便利な RemoteXs をぜひご利用ください！
登録方法については図書館 HP または図書館職員までお問い合わせください。

★利用できる電子リソース
Ovid MEDLINE、医中誌 Web、最新看護索引 Web、メディカルオンライン、Maruzen eBook Library、契約電子ジャーナル ほか

※登録には大学メールアドレスが必要です
（ドメイン名：wakayama-med.ac.jp）

本から助けられる

保健看護学部　助教　矢　出　装　子

私は図書館が大好きです。読書が好きな両親の影響もあり、小さな頃から家族で図書館へ出かけることが多く、それぞれ好みの本を借り、窓口前で合流して帰っていたことが思い出されます。親になった今も、子どもと図書館へ行くことや本を読むことは、子どもと一緒に過ごす大切な時間となっています。

私は、ここで 2 冊の本を紹介したいと思います。1 冊は絵本「くまとやまねこ」(文：湯本香樹実,絵：酒井駒子,河出書房新社,2008 年)です。くまは大切な友人であることりの死を体験します。悲しみに暮れる中、くまは悲しむありのままを理解してくれるやまねこに出会います。そこで救われるのです。悲嘆を体験する方へのケアを考えさせられる 1 冊です。

もう 1 冊は、佐藤泰子さんの「苦しみと緩和の臨床人間学－聴くこと、語ることの本当の意味」(晃洋書房,2011 年)を紹介します。私自身が日々実践している自分の看護の意味について悩んでいた時に出会い、大変救われた 1 冊になります。我々保健看護職者は病気や障がいで苦しむ方、大切な存在を失い悲嘆の中におられる方々と出会います。そんな方々の力になりたいともがき、自分がしている看護について悩んだときに手に取ってみてください。

本は知らない世界を体験でき、自分ができない経験や新しい価値観の理解を助けてくれます。学生の皆さんはこれから多くの方と出会い、その方との対話を通じて、対象理解が求められる専門職となります。悩んだ時こそ一度立ち止まり、本を手に取ってみて下さい。きっと本から助けられることでしょう。

ご存知ですか？マイライブラリ

マイライブラリとは、学内者を対象とした図書館 Web サービスのページです。学生の皆様は入学時のオリエンテーションにて、設定済みかと思います。
図書館ホームページ右上の［ログイン］または［ゲストさんマイライブラリ］をクリックし、ユーザーID とパスワードを入力すると、マイライブラリにログインができます。

ユーザーID：図書館利用者カードに記載されている番号
パスワード：マイライブラリ申請の際に決めていただいたパスワード
※お忘れの方は平日 17：30 までにカウンターにお越しください

以下のサービスがお使いいただけます。
・返却期限の延長手続き
・自身の貸出中の資料とその返却日の確認
・他の利用者が利用中の資料への予約
・ブックマーク機能
・文献複写依頼　など

便利なマイライブラリをぜひご活用ください♪

千の風になって

保健看護学部　准教授　山　田　忍

私は１月が来ると、「千の風になって」という歌を思い出す。この詩は喪失感を真に乗り越えるため、乗り越えようとしている人の心の奥底から響き渡る言葉だと感じている。この詩は日本では新井満氏が翻訳し、東日本大震災で注目され謳われて来た。私にとってこの詩は、1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災を蘇えらせてくれる。当時私は、テレビのニュースで、以前勤務していた病院の倒壊を知った。そして、1 週間後にやっと在職されていた先輩ナースに電話が通じた。「ご無事で良かった。」と心から思った。しかし先輩ナースは一言だけ電話口で、「患者さんをお一人亡くならせてしまったのよ。」と話され、その後から言葉はなかった。私は、自分の浅慮が情けなく何も理解できていない自分を恥ずかしく思った。そして病院で命を守るということ。その役割の重みを痛感した。

「千の風になって」という歌は、喪失した人々を多く救う詩であろう。私にとっては、この仕事に真摯に向き合う気持ちに戻してくれ、同時に新しく前を向かせてくれる詩である。新井満氏は、「なぜ生まれてきたのか」(海竜社, 2013 年)の中で、「死んだら風に生まれかわる」、「良いなあ、想像すると楽しそうだなあ。」と記している。「死」の訪れを実感しても、風に生まれかわると意味付けることで、生きることを肯定し「楽」を感じさせてくれている。本には、人に語れない心の中の自分と対話し、前を向いて新しい一歩を踏み出させてくれる力がある。

令和４年度ベストリーダー賞

令和 5 年 2 月 1 日に在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。
今年度の卒業生１人あたりの平均貸出冊数は 50 冊で、第１位の方の貸出冊数は 348 冊でした。
受賞者を見守る会場の和やかな雰囲気に温かい気持ちになりました。
卒業生の皆様、図書館をたくさんご利用いただきありがとうございました。

大学生活 4 年間を通して

令和 4 年度ベストリーダー賞第 1 位　卒業生　近　藤　萌

この度は「ベストリーダー賞」をいただきありがとうございます。振り返ってみると、大学生活 4 年間で図書館には大変お世話になりました。1・2 年次は事前学習や試験勉強の際に、3 年次では臨地実習での受け持ち患者さんの疾患・治療の勉強、4 年次では国家試験勉強の参考書など、大学生活の要所において図書館での学びがあったと思います。その中で、疾患の勉強をするにはどの本が良いのか、など友人と情報交換をしながら図書館に向かい、実際に本を手に取って選ぶことが私の楽しみとなっていました。図書館には私自身が持っていない専門書が揃っています。そのため、図書館で多くの本に出会い、自分の知識をより深め、視野を広げることができました。また、1・2 年次は課題があるから図書館に行って本を探すという感じでしたが、3 年次以降は自分が興味のある分野の本を探しに行くなど、図書館に通う目的が変わっていったように思います。これも沢山の本が揃っていて本を借りやすい環境である図書館があったからこそだと思います。この 4 年間で、図書館を通して今まで自分が知らなかった分野にも目を向け、多くのことを学ぶことができました。

在学生の皆さんも一度図書館に行き、自分が気になる本を手に取ってみてください。自分が知らなかった本に出会うことができるなど、たくさんの本が揃っている、たくさんの知識が詰まっている図書館だからこそ学べることがあるはずです。

最後になりましたが、図書館の司書さんには大変お世話になりました。4 年間ありがとうございました。

編　集　後　記

図書館報みかづら第 26 号も、7 名の方にご寄稿いただきました。お一人おひとりの人柄や学業・医療に対する姿勢を垣間見られる内容となりました。

マイライブラリ(P. 6 参照)の貸出期間の延長機能を活用してくださっている方が増えてきたように感じます。とても便利なサービスですので、もっと多くの方にご活用いただけるよう今後も広報してまいります！

令和 5 年 3 月 30 日発行
図書館報　みかづら（第 26 号）
編集・発行　和歌山県立医科大学図書館三葛館
〒641-0011 和歌山市三葛 580 番地
TEL（073）447－2300（代　表）
（073）446－6721（三葛館）
FAX（073）446－6730（三葛館）
https://opac.wakayama-med.ac.jp/drupal/